学校番号	104

令和８年度　理数科

教科	理数	科目	理数データサイエンス	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書							
副教材等	サクシード数学Ⅰ＋A　（数研出版） サクシード数学Ⅱ＋B　（数研出版） チャート式　基礎からの数学　数学Ⅰ＋A（数研出版） チャート式　基礎からの数学　数学Ⅱ＋B（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業は基本的には教科書に沿って進めていきます。先生の説明をただ聞いているのではなく，自ら考え，主体的に学習をしてください。また中学までとは違い，扱う問題の量が格段に増え，内容もより高度になっていきます。授業の中で「分かった」と思っていても，それを家に帰ってしっかり復習，演習をしていかないと「自分で解ける」ようにはなりません。また、試験前にまとめて復習することは難しいです。授業を受けて分からない事や質問などがあれば，放って置かず必ずその日のうちに解決していくようにしてください。
・家庭学習における課題は，定期的に提出してもらいます。また、長期休業中にはたくさんの課題が出されます。まとめてするのではなく，計画的にこなしていくようにしましょう。
・問題を解くときはまず自分で考えてみてください。その際，途中式や考え方も書くようにしましょう。分からないときは答えを見てもかまいません。ただし，そこに書いてある解説をしっかり読んで理解してから自分の力で解いてください。

2　学習の到達目標

(1) データの分析や統計ついての基礎的な知識を習得するとともに，数学的に処理する技能を身に付ける。
(2)データを分析する手法や統計的な推測を用いて，事象を数学的に考察・判断する能力を培い，それらを表現できるようにする。
(3)データの分析や統計的な推測を主体的に活用する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	データの分析や統計的な推測についての基本的な概念や原理･法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活との関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析する力や離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて，学習のまとまりごとに評価し，学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し，評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	データの分析	1　データの整理 2　データの代表値 3　データの散らばりと四分位範囲 4　分散と標準偏差 研究　変量の変換 5　2つの変量の間の関係 研究　最小2乗法 6　仮説検定の考え方 発展　仮説検定と反復施行の確率	A：散布図を描く、相関係数を求めるなどの技能を身に着けており、それらの意味を理解している。 b：散布図や相関係数などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。 c：散布図や相関係数などを用いてデータの相関を把握し、それらを事象の考察に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
2学期	統計的な推測	第1節　確率分布 1　確率変数と確率分布 2　確率変数の期待値と分散 3　確率変数の和と積 4　二項分布 5　正規分布 研究　連続型確率関数の期待値、分散、標準偏差	a：確率変数と確率分布について理解し，期待値や分散，標準偏差などを求めることができる。 b：確率変数の分散，標準偏差の意味を理解し，分布の特徴について判断することができる。具体的な事象から確率変数を求め，その期待値について考察することができる。 c：連続型確率変数についても理解し，正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できる。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
3学期	統計的な推測	第2節　統計的な推測 6　母集団と標本 7　標本平均の分布 8　推定 9　仮説検定	a：母平均や母標準偏差、標本平均の期待値と標準偏差，母平均に対する信頼区間を求めることができる。 b：母集団と標本，標本調査について理解し，特に標本平均については，それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できる。 c：母平均や母比率の推定，正規分布を用いた仮説検定ができる。それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を養う。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度